令和３年１月　作成

資料６：別支援教育コーディネーターの現状と負担軽減について

長野県教育委員会事務局特別支援教育課

１　特別支援教育コーディネーターとは

平成 16 年度以降順次、全小中高等学校において特別支援教育の推進に向けて校内や地域の体制整備を進める役割として、特別支援教育コーディネーターを指名

(1) 特別支援教育コーディネーターの主な業務

現状１▸高い専門性（多岐にわたる業務、連携先の多さ）

特別支援教育コーディネーターは、校内の特別支援教育の推進役として、様々な業務を行う

特別支援教育の推進	職員研修会の企画運営、地域や保護者への情報発信
児童生徒の実態把握	通常学級にいる支援の必要な児童生徒の早期発見
関係者との連絡調整	支援会議の開催（日程調整、外部の支援者への出席依頼） 通級指導教室担当者等や特別支援学校の教育相談との日程調整
保護者への相談支援	直接相談、担任を介した相談、就学に関する情報提供
校内体制の構築	校内委員会の企画運営 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用の推進 特別支援教育支援員の割り振りや連絡調整
教育的支援の充実	担任への相談支援、学習環境の整備、授業のＵＤ化推進、教材紹介

２　特別支援教育コーディネーターの現状　（令和２年　県独自調査）

現状２▸特コの業務を行うため、日中の時間的な不足

(1)　内訳　　（単位：人）

校内での位置づけ	人　数
特別支援学級担任	635 人(65.1%)
教頭	160 人(16.4%)
通級指導教室担当者	62 人(6.4%)
通常の学級担任	37 人(3.8%)
養護教諭	24 人(2.5%)
教務主任	21 人(2.2%)
その他	37 人(3.8%)

【特別支援学級担任の現状】

◆特別支援教育の経験年数０～１年

26 人

◆学校に一人配置の人数

167 人

◆特別支援学級担任の平均授業時数（週）

25.7 時間/週

特別支援の経験も少なく心配です。

校内で相談できる人がいません。

授業だけで精一杯です。

令和３年１月　作成

現状３▸特コとしての経験の不足

(2)　経験年数　　（単位：人）

特コ経験年数	人数
０年目	238（24.3%）
１年目	185（19.0%）
２年目	134（13.7%）
３年目	89（9.1%）
４年目以上	330（33.8%）

平均年数⇒3.2 年

【0～１年目特コの内訳】

特支担任　：　239 名
教　頭　　：　108 名
通常級担任：　20 名
通級担当者：　20 名
養護教諭　：　13 名
教務主任　：　８名
その他　　：　15 名

◆更に特別支援教育の経験が０～１年でかつ１人配置の特コは 54 名

何からすればいいのかな・・・

特別支援教育の経験が無い（浅い）場合でも、特別支援教育コーディネーターに指名される例も多い。

各校で特コが機能するための支援と工夫が必要

２　特別支援教育コーディネーターが機能するための工夫

(1)　各校で高まる特別支援教育コーディネーターの役割に対して、複数配置校が増加

工夫１▸特コの複数配置

「特別支援教育コーディネーターの配置人数」(R2年県独自調査)

年度 / 配置人数	平成 30 年度	令和２年度
1 人	342 校（63.1%）	257 校（47.2%）
2 人	131 校（24.2%）	**156 校（28.6%）**
3 人以上	69 校（12.7%）	**132 校（24.2%）**

複数配置校の増加

H30　36.9%　→　R2　52.8%

「配置人数と役割分担」(R2年県独自調査)　　（単位：人）

	教頭	教務主任	特学	通常級	通級	養護	その他	合計
１人	50	7	169	6	4	8	13	257
２人	61	8	207	14	7	6	9	312
３人以上	49	6	259	17	51	10	15	407
合計	160	21	635	37	62	24	37	976

特コの 73.7%が複数配置

(2)　各自の職種や経験等を考慮し、校内で以下のような役割分担

工夫２▸特コの役割分担と連携

「令和2年度　特別支援教育コーディネーターの役職別の人数や役割」(R2県独自調査)

	複数配置の場合の主な業務分担の例
教頭	・全体統括 ・外部との連絡調整
特別支援学級担任	・配慮が必要な児童生徒の実態把握 ・支援会議の運営 ※複数の際は、低、中、高学年で分担
通級指導教室担当者	・教育相談、学級への助言 ・来入児への対応
通常の学級担任	・通常学級の児童生徒担当 ・通常学級との連絡調整
養護教諭	・不登校対応
教務主任	・外部との連絡調整 ・校内委員会の運営

【教頭の役割】
◆101 名(68%)の教頭は、複数配置で役割分担

【特別支援学級担任の役割】
◆複数配置校では、学年や連学年に特コを配置し、定期的な連絡会で情報共有

【通常の学級担任の役割】
◆31 人(84%)は、複数配置校で、通常の学級への対応

【複数配置で役割分担する際のポイントの例】
◆全体を掌握する責任者が明確である
◆短時間でよいので、情報共有する機会を週暦や月暦に位置づける

(3)業務の効率化・負担軽減化に向けた取組実例(R 元　長野県独自調査)

工夫３▸特コが動ける校内体制（システムづくり）

① 校務分掌の工夫
- 校務分掌の軽減（クラブ、委員会、ＰＴＡ等の担当を持たない）
- 特コは給食指導から外し、その時間を職員から聞き取りや担任への情報伝達に活用

② 会議の工夫
- 校内支援委員会を毎月１回（金曜の６校時）に設定し、年暦や月暦に位置付ける
- 授業スライドの中に「校内支援会議」を位置づけ、生徒指導、養護教諭、校内中間教室、特コ、支援員が参加できるようにする（中学校の事例）

③ 情報共有の工夫
- 職員会や教務会で児童に関する情報交換を行う時間を確保
- 配慮を必要とする児童の様子を共有するための連絡ファイルを作成
- 支援員は伝達すべき情報をノートに記録し、それを特コが通信にまとめて全職員に配布
- 各学年に特別支援教育担当職員を配置し、学年会での情報を特コに伝達

④ その他
- 時間割に空き時間を作り、特別支援教育コーディネーターが自由に動ける時間帯を確保
- 外部専門家と連携し、定期的に学級の授業参観と助言の依頼

３　複数配置の例

校内で特コを育てるため、複数配置にして徐々に役割分担をする

例①　教頭の全体統括で、特別支援学級担任で役割分担をする（内容で分担）。

役　職	分担内容
教　頭（教務主任）	・全体統括、外部との連絡調整 ・校内体制の構築
特別支援学級担任1	・支援会議の運営 ・校内委員会の運営
特別支援学級担任2	・配慮が必要な児童生徒の実態把握 ・学級へのアドバイス

例②　教頭の全体統括で、特別支援学級担任で役割分担をする（学年で分担）。

役　職	分担内容
教　頭（教務主任）	・全体統括、外部との連絡調整 ・校内体制の構築
特別支援学級担任1	・支援会議の運営 ・配慮が必要な児童の実態把握（１～３年）
特別支援学級担任2	・校内委員会の運営 ・配慮が必要な児童の実態把握（４～６年）

例③　教頭の全体統括で、通常学級担任と特別支援学級担任で役割分担する。

役　職	分担内容
教　頭（教務主任）	・全体統括、外部との連絡調整 ・校内体制の構築
特別支援学級担任	・支援会議の運営 ・校内委員会の運営 ・特別支援学級の児童へ支援統括
学級担任（低学年）	・配慮が必要な児童の実態把握
学級担任（中学年）	・配慮が必要な児童の実態把握
学級担任（高学年）	・配慮が必要な児童の実態把握

例④　小規模校で複数配置による役割分担をする。

役　職	分担内容
教頭（教務主任）	・全体統括、外部との連絡調整 ・校内体制の構築 ・校内委員会の運営
特別支援学級担任 （学級担任）	・支援会議の運営 ・配慮が必要な児童の実態把握